

# むぎの郷 つうしん

April  
2014

発行/麦の郷情報管理委員会  
〒640-8301 和歌山市岩橋643  
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430  
http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、  
住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/  
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同  
作業所/はぐるま共同作業所 和の杜/けいじん舎/麦の郷印刷/  
はぐるま共同作業所 ラ・テール/障害者就業・生活支援センター  
「つれもて」/ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター  
/麦の郷紀の川・岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/  
むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二  
こじか園/こじか親子教室/麦の郷高齢者地域生活支援センター/  
事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

## 受賞



麦の郷印刷 岡崎さん

第四回 和歌山市  
自発防止啓発ポスターコンクール 優秀賞



くろしお作業所分場 米田さん



ほっとする 笑顔つながる こころの絵 入賞

### 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

# 作業所問題 研究交流集會に参加して

私は今回、第2分科会「ホームによる高齢化、重度化の実践について」の進行役をおこないました。

最初に来年度より施行されるホームの一元化（グループホーム・ケアホームの事業統合）を国より示されている報告をおこないました。新制度においては、夜勤体制を組まなければ、夜間支援体制加算が減額になることが多く、今までの運営のままでは苦しくなります。集まった事業所は声をあげて運動の必要性があることを確認しました。

続いてのレポート発表は、ふたば福祉会、一妻会からの知的・精神の高齢化に伴う実践報告があり、一方は看取りについてホームで精一杯できうる限りの体制をつくり支えきったこと、一方は高齢期においての住まいについてホーム以外の転居も検討していくことの必要性があることなど、両方のレポートともあらためて「命」に携わっている仕事ということを再認識させてくれました。

また進行役ということで、終えた後に「もう少しここをこう話すれば…」など後悔もありましたが、自身にとてもいい経験になった研修会でした。（武田）



## 「感謝」

作業所問題研究交流集会でレポート発表をさせて頂くことになり、未熟な私でいいのだろうか？と不安もあったのですが、レポート作成の時から、先輩方にも相談のつて頂き、皆さんの前で実践報告ができて、私自身にとって本当にいい経験になりました。

その中でも、一番感謝したいのが、実践報告させてもらった仲間です。彼女が居たから…彼女との時間があつたからレポート発表が出来たのだと、改めて思いました。

グループホームには、まだまだ課題が沢山あると思います。分科会のテーマもホームによる高齢化、重度化の実践についてでした。ひびきの郷の平均年齢も55歳なので、仲間の健康管理や、筋力の維持を皆で楽しく行える運動に変えて、仲間が10年後20年後元気に笑っている姿を想像して、日々仲間と過ごしていきたいと改めて思いました。

最後に、今回レポート発表をするに際しご協力頂いた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。（若名）

## 職員研修会を実施

2月22日（土）、河南コミュニティセンターにて、今年度最後となる職員研修会を実施しました。今回は、「人権」をテーマにした7月の研修会の続編として、『私たちがめざすものとは!?』No

## 参加者の「声」アンケートより

「一部ですが、ご紹介します。」

◎自分たちの職場が単なる群れなのか、集団となりえているのか、日々の実践の振り返りの重要さを改めて感じました。また、理念や使命と日々の自分たちの実践を照らしたときに見えてくる課題もあると思いました。自分たちの実践を自分たちで振り返り、評価できる力量・集団が大切だと思いました。

◎実践の中で「大いにゆらいでください」とこの先生の言葉。日々の支援の中で、ドキドキして不安になっている私にとって、励ましになりました。ゆらいだ時には「どう思う?」「意見を求められる同僚がいてくれること」を嬉しく思い、互いの力を、智慧を出し合いながら、ゆらぎながら実践をすすめていこうと思っています。



## 研修報告

## 障害者の「性」を学ぶ

「その人らしさを大切にしたい課題解決にむけて」

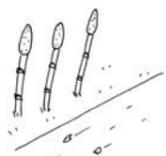
相談支援や、居場所、生活の場において

2』というテーマで山本耕平氏（立命館大学教授・一妻会副理事長）にお話していただきました。88名の参加がありました。

講義では、麦の郷の理念を再確認しつつ、新自由主義的人間観の克服がなぜ必要か、仲間（障害当事者・働く仲間）が共に育ちあう職場・共に解き放つことが可能な場として育つために大切なことは何か等について、詳しくお話して下さいました。

途中で、実際に麦の郷の中で、地域や様々な方と共存したり共に豊かになったりつなぐりを深めたりされている4名の方が、これまでの経過や取り組みについて、報告して下さいました。また、良い職員集団・お互いに成長しあう人間集団づくりを目指していくというお話もあり、そこでは「集団は群れであってはいけない」とことが指摘されました。参加者が5、6人のグループに分かれ、『集団』と『群れ』の違いはどんなことか?という話を議論し合いました。単に講義を聞くだけでなく、小集団で議論することで深められたという参加者の声が多かったです。

最後に、今回の研修はこれで終わりでではなく、各現場で議論し、一年後くらいにその報告会などの宿題をいただきました。事業形態や職員数など、職場環境は様々かと思いますが、仲間や職員同士の「挑戦のほけま」と「達成の喜び」の保障とは「挫折のとき」に苦しみを共にするのは「責任転嫁をしない」ということなのか、各現場でしっかり議論し、深めていきたいと思います。（数）

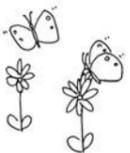


## 参加者アンケートより、特徴的な声をご紹介します

◎日頃、性についてできていないこと、見落としていたことを、あらためて今日の学びの中でたくさん気づかせて頂きました。今後の支援に生かし、「フェイス・メッセージ、OOなら良いよと伝えていく」そして認めていけるよう、自分も柔らかな目を持つ必要があると思いました。この機会をさらに重ね、学びたいと思ったら意見交換できたらと願っています。

◎私たちの職場では、この1年は特に性に関する相談が多く、私自身とまどい、どのように向き合っていたらいいのか、悩み模索をしておりますので、臆にもすぎる気持ちで参加させて頂きました。本日の中で、私たち支援者は「彼らの性に対する欲求や行動は、止める権利はない」が、「リスクはたかへんかある、あなたを守りたい、幸せになってほしい」とメッセージを出し続け、情報をわかりやすくきちんと伝えていく義務がある」と、あらためて痛感しました。そのためにも、私たちは、知識を学び、深め、またこういった研修会の中で、多くの方々と意見を交換し合いたいと思いたした。

◎福祉の仕事にかかわって、初めてこの様な勉強をさせていただき大変よかったです。自分なりに気づいぶんあいまにかかわる事も多く反省しています。今日学んだ事をよく考えて、生活の中でよい方向へ進めていければと思っています。



# 西和佐地区・桜まつり

4月12日、曇りではありましたが暖かい土曜日の午後、よさこいの掛け声とともに30名の仲間が紀伊風土紀の丘でよさこいの演舞を披露しました。

そう第18回を数える西和佐地区社会福祉協議会と麦の郷さくら祭りです。最初に式典がおこなわれ西和佐地区社会福祉協議会会長 山田恒次氏より昨年と同じ顔ぶれがそろって安心していけると挨拶されました。また来賓にご出席された方々へのお礼と祭りを楽しんでいってほしいと話され、挨拶を締めくくりました。

来賓でご出席くださった和歌山市長 大橋建一様からは、麦の郷で月一回おこなっている「麦マルシェ」が地域の農家から仕入れた野菜などを販売し、地元の方々が購入しやすいよう立地も工夫しておこなわれていることにふれていただき、地域に密着した福祉のひとつの在り方とお言葉をいただきました。

式典が終わると弁当や麦の郷でつくった豚汁やコロッケをみんなで頬張りました。そして冒頭にも書いたように「麦の郷みんなでおどり隊」がよさこいを踊り、地元のみんなで結成された「麦の郷みんなこったい隊」が歌いました。カラオケやビンゴ大会でも大いに盛り上がり、楽しい交流ができました。

今回は370名を越す大勢の参加があり、大勢の皆様方よりご協力を得て無事、開催することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。次回も参加してよかったですと地域のみなさまに思われる祭りを企画していきたいと思えます。(武田)



# 麦の郷 防災を考える日

3月11日、東日本大震災が発生した日から、もう3年が経過しました。麦の郷では昨年、震災を忘れないために、また、今後起こりうる震災に対しても意識するために、この日を麦の郷防災を考える日に設定しました。今年の取り組みは各拠点事業所に設置しています防災無線を使って、本部と事業所の連絡、連携の点検をしました。

また、幾つかの事業所では仲間と一緒に防災、地震などの話し合いをしたり、消防訓練をしました。まだまだ、小さな取り組みですが防災の意識は根付いてきています。

また設備に関しても、拠点事業所の無線のキー局開設工事も始まり、事業所間でも通話が可能になります。それに伴いカセットガス発電機も配置します。

設備に関しても、子ども支援部・各グループホームに人数分の5年間保存の食料・飲料水を配る予定です。

少しずつですが「備えあれば憂いなし」を今後も進めます。(浦口裕)



# 「ながまのecho」作品展

## ～自然な想いが響きあいました～

和歌山生活支援センター

和歌山生活支援センターは、地域活動支援センターI型の活動として、2012年7月よりアートサポートセンター「RAKU」にて毎月1回アート活動に取り組んで来ました。第1回目のステンシルアートを楽しむ事から始まり、型にとられない書道を楽しんだり粘土でオブジェを作ったり、コースター作り、織り染めも楽しみました。中でもユメだま作りは参加者全員一心不乱に取り組みました。アートサポートセンター「RAKU」の島さんより、今まで取り組んだ事を形にと、支援センターの作品展をしてみたいと提案してくださり、開催する事が出来ました。作品展の名前は「ながまのecho」作品展に仲間と一緒に考えました。

支援センターを利用されている方の中には一般就労されている方、作業所に通われる方もいるので参加したいと思う方全員が揃うのは難しい中で、この作品展の目玉となるユメだまや畳1帖より大きい紙に自分達の気持ちを書いた書を作成させました。

また13名の方が今までのアート活動で制作したものを含め、一人一点展示してくれました。展示場に入っすべく目に入る、天井からつるさされたユメだまは一人一人の個性・カラー



が出ていてとてもきれいでした。この作品展のメインともなった書は、大きな紙に筆ではなくはけで書いたので、始めは書き方・表現に苦戦しましたが、練習を重ねそれぞれの夢や目標を書き、大胆な作品が完成しました。ボランティアでご指導下さった岩崎碧洞さん、ありがとうございました。どの作品にも一人一人の秘めた力が表現されていて、感心するばかりでした。3月15日(土)より21日(金)までの7日間で、103名の方が来場くださいました。来てくださった皆様、展示に至るまでに関わってくださいました皆様、各講師の方々に感謝申し上げますと共に、今後アート活動を通して、一人一人の可能性がもっともっと広がり、発展していける事を応援していきたいと思っています。(森本)



# 「農」ある暮らしづくり事業

## 「紀の川福祉」コミュニティ農園

### 小麦ちゃん「の取り組みから

ハートフルハウス創

昨年度に粉河のまちを中心にして「農」を考えるとといったコンセプトをもって農業体験や交流をおこないました。粉河を拠点にするという事で、地元のNPOである紀州粉河まちづくり塾さん、



特産センターこかわさん、ハンドインハンドさん、農家さん、生きがいづくりアドバイザーさん等々のご協力をお借りしてコミュニティ農園づくりや学習活動等々様々な交流をおこないました。ハートフルハウスのメンバーたちも「どのような活動を行うか」「どういった農園をつくるか」という企画から運営についての会議に参加し活動と共に学びました。

フォーラムでは、地元でも大活躍されている演歌歌手 宮本静さんによる美声からはじまり、近畿大学の鈴木高広教授による原発がなくなるかもしれない、さつまいもエネルギーについて基調講演や、地元農家さんや農業に関わる方々のシンポジウムを行いました。毎週交流をおこなった「農園ふれあい寺子屋」では食や命を考えるといったテーマをもった映画の鑑賞、和歌山市内のだれもがニコニコになれるふれあいコミュニティ農園「にっこに農園」や橋本市の棚田の景色が素晴らしい里山保全活動を行う「はしもと里山保全アクションチーム」の見学に行ったり、学習会では、神谷栄養士さんによる食を考える学習、みみず農園研究所山田さんの「みみずは地球を救う」と提唱したお話などなど盛りだくさんの活動を行いました。

今後の活動としては、生まれだてのコミュニティ農園をどのように運営してゆくかを検討し、より多くの方が関わる事ができる活動を作ってゆきたいと思えます。(野中)



### 私たちの絵が入選しました

くろしお作業所分場

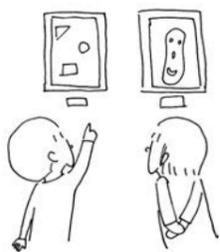
くろしお作業所分場では、作業の他にレクやヨガや散歩、絵を描く等の余暇活動も行ってきました。

そんな中で絵の活動は先生の指導の下、作品作りを行い機会あるごとに、展示会やコンクールに出品してきました。そして2名の仲間がコンクールで選ばれました。

一人目は米田裕有子さん(表紙写真)です。彼女の作品は昨年11月に行われました「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」コンクールで最優秀賞を受賞し、この度、メモ帳となって自殺防止対策の啓発物品として広く、市民のみなさんに配布されています。

二人目は森田昌和さんです。彼の作品は昨年12月にきょうさんぐッズコンクールで入選いたしました。こちらは2015年「働くなかまの歌カレンダー」の最終頁に掲載されます。

米田さんはもともと絵を描くのが好きな方で、テーマに合わせてみんなが笑顔になる作品を描いてくれました。森田さんは風景画を好んで描いており、時間を掛けて点描画で富士山を描きました。

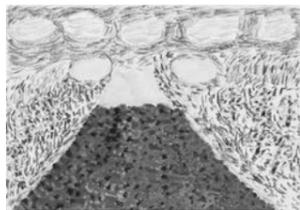


今回の入賞・入選は二人にとって大きな自信となり、新たな創作意欲を引き出しています。一方で、他の仲間たちも「次は自分が」と張り切っ

ています。

作業だけではわからなかった仲間たちの豊かな表現力。これからもっと伸ばしていけるように、取り組んでいきたいと思っています。(池上)

このたび、ほくのかわいた富士山の絵が、第6回きょうさんぐッズデザインコンクールに全国1724点の中から入選しました。



この絵は、2015年「はたらく仲間のうた」カレンダーの最後のページにのることになりました。まさか入選するとは思わず、後になって自分でもびっくりして信じられない気持ちでした。とてもうれしかったです。これを自信に、これからもくろしお作業所分場で絵をかき続けたいと思います。(森田昌和)

### 「ぼくはみんなの笑顔が大好きです」

はぐるま共同作業所 結い

結いでは、3月にお楽しみ旅行に行きます。毎年なかがまが入れ替わってきますので、同じ構成メンバーで出かける最後の旅行となります。ですから、なかがまたちが各自このメンバーでどこへ行きたいか、何をしたいかをパンフレットやパソコンで調べてプレゼンを行います。そしてみんなの投票で行く場所を決定します。今年



ンピースの乗り物に乗ってランクCのレアもののカードをもらいました。また行きたいです。原爆資料館で火傷のところに写っていてかわいそうだし痛々しかった。歩いて疲れました。なつちゃんとおめつちゃ話した。楽しかったです。中華街のちゃんぽん美味しかった。ホテルのラーメンとかバイキングの角煮まんとかいろいろおいしかった。小龍包とかおいしかった。帰りの飛行機に乗っていたあかちゃんかわいかったです。

### ★「長崎旅行に行って」(吉良太智さん)

ハウステンボスでお化け屋敷に行つて結構怖さがあった。最後はダチオウクラブが出てきてすごく笑つて楽しかったです。ワンピースのサニー号に乗ってナミちゃんの水着姿を3DSカメラで撮りまくって楽しみました。

### ★「長崎に行ったよ」(山口達也さん)

3月17、18、19日飛行機に乗って長崎に行きました。ハウステンボスに行きました。お化け屋敷に行きました。怖かったけど楽しかった。サニー号に乗りました。電車に乗りました。ちゃんぽんと餃子を食べました。おいしかったです。朝バイキングおかわりしました。晩のラーメン食べました。朝風呂に行きました。原爆資料館に行きました。よかったです。また長崎に行きたいです。



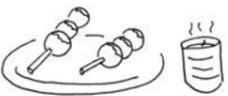
度は長崎に決まりました。せっかく長崎に行くのなら、と結いの初泊3日のお楽しみ旅行となり、原爆についで事前学習もしっかりして長崎旅行に望みました。長崎の街ともになかまたちのたっぴりな笑顔とたくまじさに感動しっぱなしの3日間でありました。どのような旅行であつたかはなかがまの感想を読んで頂くのが一番みなさんにお伝えできると思いますので紹介します。(市川)

### ★「長崎旅行に行って」(T・Hさん)

3月17日朝、はぐるま共同作業所に集つて関空まで車で行つて、7時10分のビーチ航空に乗って福岡空港まで行きました。福岡駅から博多駅まで地下鉄に乗って、博多駅で駅弁を買つて博多駅から9時31分のハウステンボス号に乗ってハウステンボスに行きました。お化けが一番怖かったです。4時48分の電車に乗って長崎駅まで行きました。長崎駅から路面電車に乗って、ホテルドリーミンの10階の1019号室に泊まりました。夕食は長崎中華街で食べました。夜食に夜鳴きそばを食べました。18日、原爆資料館に行きました。1945年8月9日午前11時2分、原爆が落とされました。平和公園にお参りに行きました。大浦天主堂にも浦上天主堂にも行きました。

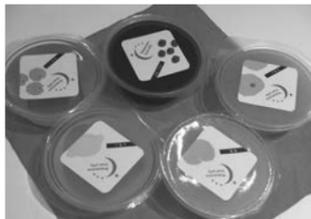
### 和の杜ゼリーが、市民活動の寄付のき商品

はぐるま共同作業所 和の杜



全国的に展開されている、がん患者の方たちやご家族を応援する「リレー・フォー・ライフ」(RFL)という活動があります。昨年、和歌山にもその団体が誕生しました。5月24・25日(土・日)に、和歌山公園砂の丸広場でイベントが開催されます。その活動資金をつくるための「寄付つき商品」に、天然果実使用の「和の杜ゼリー」を使いたいとお話がありました。デザイナーの方が考案されたおしゃれなパッケージで、商品が誕生しました。現在は、各イベントなどで販売されていますが、今後はお見舞いなどにもつかっていただけるように、病院などの売店でも扱ってもらう予定だそうです。(島)

治療の中で味覚障害が生じた、がん患者の方でもフルーツ果汁の味は、感知しやすいと聞きしました。和の杜ゼリーが、こんな形でお役に立てるなら…と、この取り組みの輪に加えてもらいました。この活動が広がることで、和の杜で働く障害のある仲間たちの生産活動が潤うことになれば、双方にとって意味のある活動になると思います。(大中)





## 麦の郷印刷 移転のお知らせ

2月の初めに麦の郷印刷の加工場が、直川から六十谷に移転しました。最初に新しい加工場を見た時は、物が何も入ってなくすごく広く感じ、音もすごく響き、ここで本当に大丈夫か?と少し不安になったのを覚えています。

移転した当時は、ちょうど印刷事業の一番忙しい時期でしたので、バタバタと慌ただしく時間が過ぎましたが、みんな環境の変化にも対応してくれ、無事に新年度を迎えることが出来ました。

六十谷では今A型3人、B型が7人と人数も少しずつではありますが増えて楽しく、そしてしっかりと仕事をこなしてくれています。

引っ越しし、まだまだ色々な課題がありますが、これからもひとつひとつ解決して、もっと働きやすい環境を整えたいと思います。

これからも府中、そして新しくなった六十谷の麦の郷印刷を、よろしくお祈りします！ (赤井)

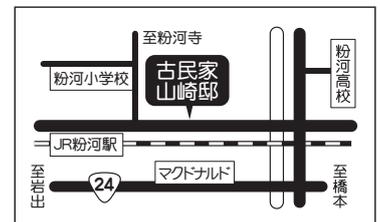
## 創-HAJIME-cafe リニューアルオープンのお知らせ



昨年、12月より屋根の改修及び耐震工事のため一時休業させていただいている創-HAJIME-cafeですが、当初4月を予定していたリニューアルオープンが工期延長に伴い5月末になりました。心待ちにしてくださる皆様には、また1ヶ月ほどお待たせする形となりましたことお詫び申し上げます。

リニューアルオープン後は、カフェはもちろんのこと定期的なイベント開催などを通してより地域のみなさまと共に育てていく創-HAJIME-cafeを築いていきたいです。

初夏の5月末に、山崎邸・創-HAJIME-cafeでみなさまとお会いできる日を心よりお待ちしております。



## むぎのひと



むぎピース  
鈴木悦子

むぎピースで働かせていただいて、この4月で3年目になります。

むぎピースは多機能型で、自立訓練(生活訓練)と就労支援B型をしています。仕事は、シフォンケーキや惣菜作りやアート工房、食堂「むぎ太」(出張所)をしています。

メンバーや職員の垣根のない…“ほんわか”とした雰囲気にも包まれながら、素敵な空間：穏やかな居場所で仕事ができることに、感謝しています。むぎピースのキャッチフレーズは…「その人らしさの追求」です。みんなワイワイ楽しみながらも、個人の

ニーズやペースに着目した内容を、最大命題にすえて日々、支援しています。消費税が5%→8%になった春、本体価格に税込価格…本来の中身が小さく減ることを余儀なくされている今日です。私たちの支援や地域づくりの輪は、大きく花開かせていきましょう！

**麦マルシェ**  
 mugi marché  
 和歌山の新鮮野菜・果物・焼きたてパンetc...販売  
**第13回 麦の郷つながり市**  
 マルシェ 出逢いつながり市  
 2014年5月11日(日)  
 毎月第2日曜日10:00~14:00  
 場所: 地域活動センターむぎわらぼうし 和歌山市豊橋729-1 (先スーパ-みちや橋)  
 <お問い合わせ>  
 社会福祉法人 麦の郷 麦マルシェ事務局  
 TEL 073-460-7109  
**手づくり市つた**  
 (障害者アート販売)  
**フードコートお祭り!**  
 焼肉牛カレー 焼きそば 焼きうどん 焼きそば 焼きうどん 焼きそば 焼きうどん  
**おもしろ企画 やとんぼと作ら**  
 24年前11時~先着20名様 (1人100円)  
 先着20名様に竹和歌山  
 飛ばし教えるてれすよ!  
 \*売上げの一部は公益財団法人 和歌山地力応援基金に寄付されます。